

## 令和5年度 第1回土佐和紙総合戦略推進会議本会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和5年7月27日(木) 13:00~15:00 (場所: 紙産業技術センター2階研修室)
- 2 出席者 出席者名簿のとおり
- 3 議題 ①土佐和紙生産量調査の報告について  
②第1回プロジェクトチーム会の開催概要の報告等について
- 4 議事要旨

### 議題①土佐和紙生産量調査の報告について

- 事務局(工業振興課)より第2期土佐和紙総合戦略のスケジュールについて説明〔資料1〕した後、土佐和紙生産量調査で聞き取りした内容について説明〔資料2〕
- 事務局の説明に対する委員からの意見や質問等はなかった。

### 議題②第1回プロジェクトチーム会の開催概要の報告等について

- 事務局(工業振興課)より第1回プロジェクトチーム会の開催概要の報告等について説明
- 事務局の説明に対する委員からの主な意見等は以下のとおり

【各PTの振り返り】

#### ■PT①の報告について

(いの町 近森委員)

- ・ 楮<sup>こうぞ</sup>生産実態調査は7月31日と8月2日を予定している。3チームに分かれて調査訪問を行う。基本は7月31日に全調査対象者へ訪問を行い、不在などで訪問できなかった方を8月2日に再度訪問する予定。例年は2チームで調査をしていたが、今年からは1チーム追加して調査を行う。
- ・ 地域おこし協力隊のインターンは10月または11月頃を予定している。

(中山間地域対策課 安藤委員)

- ・ 耕作放棄地の活用について集落活動センター協力できればよいが、そもそも集落活動センターの数が少なく、人手も十分でないため、全体の量を上げていく部分ではあまり期待できないと考える。

(高知大学 田中副委員長)

- ・ 集落活動センター佐賀北部ではへぐりなどの作業を行っている。
- ・ 他県(岐阜県)ではへぐりの機械化が取り入れられている。
- ・ 福祉作業所でのへぐりの作業は鹿敷製紙さんが中心になって行っているが、鹿敷製紙さん以外の県内の事業者にもこれまで声かけを重ねてきたが、へぐりの方法などの違いもあり、広がっていない。
- ・ 様々な品種の楮を使ったり、輸入した楮、パルプなどのブレンド、防腐剤や漂白剤なども

利用したりしながら、多様な和紙を漉く技術を培ってきた工夫を隠すのではなく、それぞれの和紙の特徴を含めて説明していくことで、和紙への信頼感や価値も訴求できるのではないか。

#### ■PT②の報告について

(歴史文化財課 中内委員)

- ・土佐和紙保存会では、7月15日の土曜夜市で土佐和紙のはがきをすく体験を合わせて行った。今後もこのような取り組みを通じて、土佐和紙の認知度向上につなげていこうとしている。
- ・用具は耐久性があるため修繕の頻度が低いが、いざ修繕を頼むとなると納期に間に合わないといった課題がある。
- ・また、用具職人は一定の需給がないと生業とすることは厳しい。
- ・土佐典具帖紙、土佐清帳紙の技術の伝承のためには、まずは技術の定義の明確化と体系化した技術研修が必要。
- ・今年度はガイダンス研修の実施を考えているが、清帳紙の研修実施のために必要な研修用の用具の確保が難しいため、典具帖紙に絞ってガイダンス研修を実施する予定。

【本会議での確認】

#### ■楮ワークショップについて

(紙産業技術センター 刈谷委員)

- ・過去に開催したワークショップでの意見交換内容を提示し、それを整理したうえで、できることを今後検討していくべき。

(岡崎委員長)

- ・過去に開催したワークショップで出た意見は共有しており、PT会でも議論されてきた内容との重複も多かった。今後は、その内容を整理しつつ次のステップにつなげられるような実践的な取り組みを進めようと考えている。

(高知大学 田中副委員長)

- ・令和3年度のワークショップでは農家同士の横のつながりをつくり課題を共有できるようにしたが、コロナ禍の流行に伴いワークショップの開催が困難になってしまい、会が途絶えてしまった。
- ・他県の事例について
  - 新潟県(小国和紙)
    - ・日本酒久保田のラベルの紙をすいている方たちは、土佐楮が入手できない状況にあっ

た。そこで自分たちで楮の栽培を始めたところ生産量が上がり楮が余ってしまったため、売りに出してしまうほど楮の生産に成功したという事例があった。

○埼玉県（細川紙）

- ・教育機関と連携しながら楮を生産している。
- ・このような事例が他県にあたりるので、今後そういった県と意見交換を進めていってはどうか。

（環境農業推進課 千光士委員）

- ・楮は複合経営の中の1品目であり、やり方によっては可能性はあるが、楮生産者が何を求めているかを明確にしないと今後の持続的な楮生産者確保にも繋がらないのではないか。
- ・農地を守る地域計画を策定するうえで、どこの農地を「誰が」守っていくかという担い手の設定をしていくべきだと考えている。
- ・また、プレイヤーをどう設定していくかが課題であり、楮を地域として誰が守っていくかを今後実態調査なども踏まえ、考えていく必要がある。

■PT②担い手づくりについて

（岡崎委員長）

- ・基本方針Ⅱ「担い手づくり」での一番の課題は、募集をかければ土佐和紙職人になりたいという他県の人には一定の応募があるが、現時点でそれを受け入れる環境がないという点である。
- ・打開するためには、土佐打刃物でいうところの鍛冶屋創生塾のような組織的な動きが土佐和紙においても必要であるため、今後何ができるか検討していくべき。
- ・組織的な動きを考えるうえでは、研修する場所がないという問題が出てくる。研修施設をどうするかがPT②で大事になってくるため、今後検討していきたい。

■PT③付加価値づくりについて

（小津和紙 木村委員）

- ・産地や生産者の情報を求める人は多いため、販売する側としては、産地や生産者の特色や歴史などの情報を開示してほしい。

■その他

（岡崎委員長）

- ・今後各PT会でPDCAシート等を活用して、次年度に向けて各基本方針における取り組みを改善していきたい。

## 株式会社中川政七商店様の事業のご紹介

○赤塚様より株式会社中川政七商店の事業についてご紹介

○本日の会議に対する赤塚様からの主なご意見・ご感想等は以下のとおり

(中川政七商店 赤塚様)

- ・生産者同士であったり、生産者と用具職人、原料商との間でコミュニケーションがあまり見受けられないと感じたので、今後改善していくべき。
- ・計画の中で、例えば機械すきであれば5年後の目標金額を1億円以上伸ばすとなると、それぞれの取り組みが目標額のどの部分にアジャストしていくかといった、目標との具体的な連動を議論していくことが重要だと考える。
- ・和紙職人を目指して他県から高知に移住してくる人を受け入れる体制を構築することが最も取り組むべきことであり、そのための環境を整備し、今後、そのような人が増えていくことによって産地に変化が起きるのではないか。

以上をもって、議事を終了した。

最後に、事務局より次回の土佐和紙総合戦略推進会議本会議及び今後の各PT会の開催について案内し、令和5年度第1回土佐和紙総合戦略推進会議本会議を閉会した。